

国労

蘇我運輸区分会ニュース

見習い期間にダイヤ改をまたぐな!

新人車掌見習いが昨年度から、それまで2回に分けての赴任だったものが3回となりました(本当は4回?)。

職場によって異なるようですが、当区では3回に分けられたことで、昨年度3陣目の新人車掌は、見習い期間中に今年3月のダイヤ改「正」をまたぐこととなり、精神的な負担を強いられることとなりました。今年度もこのままでは同様の事態となります。

まずダイヤ(列車運行図表)もダイヤ改を挟んで2回作らなければならず、何より問題なのは、ダイヤ改後、作業手順が変更になった部分があったことです。

来たばかりのただでさえ不安で、どうにかやっとの思いで仕事に慣れようとしてるのに、途中で作業手順が変わる



中で何やってんの?

さえないので、どうにかやっとの思いで仕事に慣れようとしてるのに、途中で作業手順が変わる

など、混乱が増すばかりで、安全問題にもつながりかねません。

見習い期間中は、もっと余裕を持った計画であるべきです。(かと言ってダラダラと不安を完全に払拭するまで続けるのも問題ですが・)

全社的に決まったことではありませんが、受け入れる側も気を使う状況なら、せめて職場ごとに前段で現状を訴えながら最善案を考え、新人たちが戸惑うことなく「安全のプロ」になれるようにフォローし合うべきです。会社の都合で、新人に余計な気苦労を与えてはなりません!!

乗務員(特に女性)の写真や動画が撮られ、不特定多数に閲覧されるようになるという肖像権、人権の侵害のものまで存在するようです。

ダメじゃん①

ある日曜日、蘇我駅構内ではジェフ市原(サッカーチーム)の選手による自動放送が流れる中、蘇我駅社員3人がポスター貼りをしてました。はっきり言って一人で十分な作業です。「まさかね?」と思いつつ改札窓口を見たら、案の定!!!いつものように中のカーテンまで閉められていました。その前には、何か聞いたような年配の利用者がウロウロ・・・。

私たちは1徹の内、この改札を少なくとも4回(前夜だと2日で8回)通りますが、内1回くらいは閉ざされた改札窓口のインターホンを利用者が押すのを見えています。それだけの需要があるのに、社員自らが利用者に対し壁を作っている神経が理解出来ません。困っている利用者をほったらかしにして、3人でポスター貼りなど言語道断です。

私たちがこの会社で、数十年間培ってきた常識からは確実に何か狂ってるとしか言いようがありません!

同じ社員同士で、批判するのも心苦しいですが・・・。(この関連記事は3回目)

ダメじゃん②

先月某日、新習志野駅上りホームで介助なしの単独車椅子旅客がドアに挟まり、他の旅客が助けるという事象がありました。当該旅客に怪我もなく、大事には至りませんでした。問題はここからです。

詳細を確認しようと、駅ホームに設置された防犯カメラの映像をチェックしようとしたら、柱に隠れて肝心な箇所が死角になって何も分からなかったとのことでした。何のためのカメラだったんでしょうか?人命にも関わる大事な設備です。形だけではなく、こまめの点検をお願いしたいところです。

乗務員の人権を守れ!

SNSの普及により、乗務員(特に女性)の写真や動画が撮られ、不特定多数に閲覧されるようになるという肖像権、人権の侵害のものまで存在するようです。

支社でも対策が講じられているようですが、相手側も慣れっついで、いくらでも逃げ道をわかまえていくという厄介、且つ腹立たしい連中です。もっと厳しい態度で臨むべきです!.....!